



第 1 号  
 令和5年7月10日発行  
 八町小学校運営協議会  
 豊橋市八町通五丁目5  
 TEL 52-1184

# 小学校と地域住民・保護者を《つなぐ》

## 学校運営協議会

### スタート！

地域コーディネーター・リーダー 吉見正樹

#### ○ 待ちこがれた運動会

「フレイフレイ おに・・・」  
 「フレイフレイ てんぐ・・・」  
 『おに』と『てんぐ』の歌詞が入った『運動会の歌』が運動場に響いていました。入学したばかりの一年生の子も元気いっぱい大きく口を開け、体全体を使って、歌っていました。競技がはじまれば子どもたちは全力で取り組んだり、同じチームを応援したりして学年を越えた仲間として頑張る姿がありました。さらに、高学年の子は器具の出し入れや先生の補助などしてきびきびと動く姿も見られ、頼もしくもあり、感激しました。

五月二十日(日)、一日延期された



運動会「青空フェスティバル」の情景です。コロナが完全に収束したわけではありませんが、この三年間と違った本来の運動会の姿がありました。

運動場には多くの保護者や地域の方々が集まっていました。来校された方々は、子どもたちの全力で取り組む姿に手拍子を送ったり、「がんばれ」と大きな声を出して声援したりして、みんなの笑顔があふれていました。

#### ○ 子どもの宝

私は生まれも育ちも八町です。今はありませんが戦争の名残、機銃掃射の跡が見られた鉄筋の校舎や三年生までは牟呂用水で泳いだことなど小学校時代の思い出がたくさんあります。また同時に鬼祭りの宵祭りに町内の青年団の人に神社に連れていってもらったことや公園でお兄さんたちと一緒に遊んだことや近所のおじさんに叱られたことなど今でも鮮明に思い出すことができます。いつも地域の人が近くにいる遊びも地域のしきり・きまりなども自然に教えてもらっていました。今思えば学校以外にも学ぶ機会がいっぱいありました。

#### ○ 「子どもは地域の宝」

「子どもは地域の宝」と言われます。子どもたちは昔も今もまさに地域にとつてかけがえない宝であり、地域住民をつなぐ大きな架け橋でもあります。だからこそ「地域の子どもたちは地域で育てる」ことは昔も今も変わらず求められていることです。もちろん昔と状況は違いますが、地域住民のつながりが薄

れてきた今こそ、校区に住むみなさんと共に一緒に何ができるか考えていきたいと思います。

#### ○ 新しい学校運営協議会

本年度から市内四校でコミュニティ・スクールがスタートした。この八町小学校も選ばれました。この学校運営協議会に求められていることはまさに《学校を核とした地域住民のつながりを深める活動》といえます。

#### ○ 学校運営協議会の役割

今までは子育てやしつけにかかわること、地域で担う部分に關しても小学校に知らず知らず期待していた部分があったのではないのでしょうか。今後は、小学校と地域住民・保護者を結び、子どもたちのために協力・支援をより推進していきたいと考えています。今も小学校の教育活動を協力・支援している団体や個人の方は大勢います。まずは協議会として、そうした活動を地域住民・保護者の方々に理解していただき、支援の輪が広がるように情報発信していきたいと考えています。校区住民が一つにつながり「八町校区にいてよかった」と実感できるように取り組みをしていければと思います。

# 第一回 学校運営協議会 報告

令和五年五月十一日(木)

八町小学校の多目的室において、初めて学校運営協議会が開催されました。

八町小学校をはじめ市内四校(新川・磯辺・二川)では学校評議員会をなくし、新しい学校運営協議会をスタートさせました。今後、市内の小学校・中学校にも拡大されていくようです。

今までと大きく違う新しい取り組みがはじまるわけですので、地域コーディネーターが推進役となり学校運営協議会委員のみなさんと相談・話し合いをしながら進めていきます。今回はスタートにあたり八町小学校としてどのように進めていくか学習会も兼ねて実施されました。

今回の議題は二つありました。

○山本校長の「本年度の学校運営方針について」

○「学校運営協議会およびコミュニティ・スクール活動運営要綱」の2点が協議事項でした。

(1) 二年目を迎える山本校長のめざす児童像

笑顔あふれる素敵な学校)

「温かさ」と厳しさの中で

心と体の成長を

「自分・仲間・家族・地域を大切に、様々な場面で個性を遺憾なく発揮する八町つ子を育みます」

この想いで八町小学校の教育活動を進めていかれます。心と体の成長には温かさだけでなく厳しさも必要だと思えます。先生方だけでなく私たちもこのことを念頭に一緒に支援していきたいと思います。

(2) 学校運営協議会のめざす目的や組織・運営について

### ◎ 目的

① 子どもたちのために、保護者、地域の住民等の学校運営への参画、支援及び協力を促進すること

② 地域とともにある学校づくりを進めること

◎地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)の職務

学校運営協議会の推進にあたり関係団体とつながり、その活動の様子を共有する。

### ◎八町サポーターの新設

地域住民および保護者の希望者で組織する学校支援協力員(八町サポーター)の募集および管理、連絡、招集、監督を地域コーディネーターが行う。

校区のみなさま・保護者の方々のご支援をいただき、進めていきます。



▲第1回学校運営協議会

### 学校運営協議会 委員名

会長兼コーディネーター・リーダー

吉見 正樹(校区自治会長)

コーディネーター・事務局

福井 基明(八町文化協会会長)

井本 玲子(主任児童委員)

副会長

鈴木 誉也(PTA会長)

委員

大須賀憲太(同窓会長)

小林 大悟(有識者・法曹関係)

黒柳 英司(老人クラブ連合会長)

中西詠美子(PTA副会長)

藤本 英彦(地域ボランティア)

神野左和子(地域ボランティア)

荻山 匡仁(豊城地区市民館長)

佐々木裕子(民生委員)

上林 由美(豊城中学校教頭)

山本 武志(八町小学校長)

# 人・ひま・うた

今回、八町ベルクラブ代表の藤田ゆみ子さんにお話をお聞きしました。



**ベルクラブはどのような活動をされていますか？**

藤田：商品についているベルマークを集めることがメインですが、ほかにもテトラパックやインクカートリッジも同様に集めています。それを企業毎に整理・集計する活動を行っています。他に集まったベルマークの点数によって学校の要望を受け、児童の教材や設備品を購入しています。また、「八町祭り」で毎年だんごを販売し、売上を寄付しています。

**ベルクラブにかかわっているメンバーについて教えてください。**

藤田：この活動をはじめて二十年以上になりますが、私と六峰文子さん・高須かおりさんはずっと続けています。そして毎年

P T Aの地域委員十三人と時には子どもさんも一緒にお手伝いいただいています。仕事をされている方も多いですのでお互い無理のないところで参加していただいています。

**P T A以外の方が中心になってやっている校区はあるのですか？**

藤田：非常にめずらしいと聞いています。初めからこのような形でスタートしたわけではありません。他の校区と同様にP T A活動の一つとして実施していました。

**なぜこのように変わったのですか？**

藤田：二〇〇〇年に八町小では社会の変化に合わせてP T A活動の見直しがなされました。今までと同じ活動はむづかしいとスリム化したのです。その中でいくつかの活動を中止し、またP T Aの会員以外の方が中心となり、ボランティアで継続してもらうことになりました。このベルクラブもボランティアで継続することになった一つです。

**ボランティアで活動を始めたころの様子は？**

藤田：最初はP T A活動から離れたため、自分で回覧板用の呼びかけのチラシを作製しましたし、六

峰さんや高須さんにも協力いただき、校区の皆さん方へボランティアとして参加の依頼や、作業の準備をしました。十年ぐらいはそんな状態でしたが、その後、P T A活動としても、また校区でもいろいろ協力してくれるようになりました。

**どんな物を購入しました？**

藤田：今までに購入したものは、運動会で使う紅白の白玉やビデオカメラ、また一輪車や加湿器、学級掲示の時計、体育館用の掃除機などさまざまあります。

**活動を続けてこられた思いは？**

藤田：一番は学校や子どもたちのために役立っているということの喜びですね。それと皆さんがベルマークを集める活動にすすんで協力してくださるその心遣いがうれしくて、がんばって続けることができていると思います。年三回、収集袋を回覧板に挟んで回収させていただいています。いつも感謝の気持ちで集まってくるベルマークをみています。こうした活動は簡単そうに見えてもなかなか継続できることではないと思います。本当に皆さんの温かさに感謝です。

**印象に残っていることは？**

藤田：二〇一二年には五百万円(五百万円相当)を東三河で新川小学校に続いて二番目に達成しました。コツコツ積み重ねてきたことが、このような結果につながり、よかったと思いました。

また、住商フルーツのキャンペーンに当選しバナナが六四〇本も送られてきて学芸会の日に児童や保護者・先生方とみんな食べたこともありました。



▲集計作業をする

**皆さんに一言**

藤田：この活動を通していろいろなつながりができ、よかったと思っています。皆さんの中で時間が許す範囲で結構ですので、活動の輪に加わっていただければありがたいです。

# コミュニティ・スクール

## Q&A

**Q1**…コミュニティ・スクールとは何ですか？

A1…学校運営協議会を設置した学校のことをいいます。このコミュニティ・スクールの目的は学校と地域住民などが力をあわせ、子どもたちのより良い環境づくりに取り組み「地域とともにある学校」を目指すことにあります。

**Q2**…学校運営協議会と今まであった学校評議員会の違いを教えてください。

A2…『学校評議員会』は学校の計画や運営に評議員の意見を反映させて特色ある学校づくりをめざすものです。あくまでも学校が主体となつて進められています。

『学校運営協議会』は保護者や地域住民が一定の権限を持つて学校運営に参画する新しいタイプの学校作りです。学校に対して意見を述べるだけでなく、積極的な関わりが求められます。そのため、学校運営に関して一定の権限と責任を持つこととなります。

**Q3**…学校運営協議会がはじまるとどのように変わるのですか？

A3…今まで学校の教育活動への協力や支援の依頼は、多くの場合が学校（特に教頭・校長）から呼びかけがあり、それを受けて、各種団体や個人が手伝いをするという形が一般的でした。これからは学校の教育活動への協力や依頼に対しては、学校だけでなく、学校運営協議会（特にコーディネーター）も責任を持って働きかけをしていくこととなります。

**Q4**…今まで進めている小学校への協力関係は変わってくるのでしょうか？

A4…今までも、八町小学校では、自治会・PTAをはじめ多くの各種団体や個人が子どもたちのためにさまざまな協力や支援をしています。もちろんそうした活動を学校が手を引くというのではなく、学校運営協議会も主体的により広く校区住民に広め、その活動の輪を広げていきたいと考えています。

**Q5**…どのように地域住民にそのことを伝えていくのでしょうか？

A5…地域住民への理解と協力を築くために、学校からの情

報提供だけではなく、学校運営協議会からの情報提供も必要となると考えます。子どもたちの活動の様子は小学校からの便りで伝わると思いますが、学校を支援している各種団体や個人の関わりや会合等の様子は伝わりにくいので積極的に情報提供して、地域住民の理解者を増やすようにつなげていきたいと思っています。

**Q6**…今後、具体的に学校運営協議会として、どんな活動を進めていくのですか？

A6…まだスタートしたばかりですが、以下の4点を中心に進めたいと考えています。

- (1) 学校の教育活動における各種団体・個人の支援活動内容の把握と皆様への広報活動
- (2) 学校を支援している各種団体・個人の実態の把握と活動の輪の拡充
- (3) 学校を核とした各種団体・個人の支援活動の横のつながりを構築
- (4) 学校を核とした新しいコミュニティ作りのため、学校運営協議会が中心となつて協議・検討し、活動を推進

校区の皆さんや保護者の方々のご理解・ご支援をいただきながら進めます。

## 八町サポーター登録にむけて！

八町小学校の教育活動を支援するボランティアとしての「八町サポーター」を今後募集していきます。授業や行事の支援や環境整備などの手伝いをおして、児童や大人とのふれあいの輪を広げたいと思います。

※現在、登録の準備を進めています。まずは、学校、自治会からのメールが受け取れるように、右のQRコードから登録をお願いします。



団体コード hacchousyou  
登録用コード BThPui

★問い合わせ・連絡先  
コーディネーター・事務局  
福井基明 090-4448-6306  
井本玲子 080-6912-2070  
八町小学校(教頭) 0532-52-1184